

今月は、不登校児童生徒のニーズに応じた特別な教育課程を編成・実施する不登校特例校として誕生し、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)にもとづき、現在の名称となった、「学びの多様化学校」について、疑問や質問にお答えします。

Q1 「学びの多様化学校」ってどんな学校？

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮して、特色ある教科(あち探究科, とことんチャレンジ科等)を新設したり、総授業時間数を削減(1015 時間⇒750 時間に)したりするなど、特別の教育課程を編成して教育を実施している学校です。

児童生徒の多様性を認め、不登校の児童生徒が少しでも学校に通いやすく、一人一人に応じた学びの機会を得られる学校で、一般の小学校、中学校、高等学校等と同じく卒業資格を得ることができます。

阿智村学校のあり方検討委員会では昨年12月、文部科学省へ出向き、学びの多様化学校制度について、阿智村への活用可能性と配慮事項について情報共有させていただきました。



Q2 なぜ、阿智村に「学びの多様化学校」が必要なの？

阿智村内(令和6年度)では、小学生331人中3人の児童が、中学生177人中20人の生徒が不登校(年間30日以上欠席)となっています。

不登校児童生徒の割合(令和6年度)

	小学生	中学生
全国	2.14% (47人に1人)	6.71% (14人に1人)
阿智村	0.91% (110人に1人)	11.30% (9人に1人)



阿智中学校「心の教室」

教室に入りにくさを感じる生徒の居場所として、個別学習や興味関心に基づく探究学習など、学びの場所となっています。



教育支援センター
(中間教室)

阿智第一小学校に隣接して設置されています。村内6小中学校の児童生徒を受け入れ、個に応じた学びをしています。

小学校に比べて中学生の不登校の割合が多いのは、小学校から中学校の環境変化(平谷小を含めた6小学校から進学)による不適應(中1ギャップ)が一因と考えられます。

阿智中学校内「心の教室」や教育支援センターと連携して、中1ギャップを軽減し、不登校の児童生徒が安心して通える「学びの多様化学校」の制度を取り入れることが必要だと考えています。

Q3 全国には何校あるの？

令和7年の時点では、全国に 58 校の設置となっています。長野県内には、まだありません。阿智村で設置する場合は、分教室型の形態が適していると考えられます。

学びの多様化学校の形態と設置校数（令和7年度）

区 分	設 置 形 態	設置校数
学校型	独立した学校として設置	22校
分校型	母体となる本校と分離して設置	5校
分教室型	小, 中, 義務教育学校の中に設置し, 一部の学級のみを指定	22校
コース指定型	高校において特定のコースを指定	9校

香川県三豊市立高瀬中学校



玄関や下駄箱は、通常学級と別にしています

奈良県大和郡山市立郡山北小中学校 分教室 ASU



机を移動してその子に応じた
学びができる学習室



大机を囲んで集団で
学べるスペース



Q4 学びの多様化学校には、どのような特色があるの？

学校により様々な特色があります。一般的な事例として、下記①～⑧を紹介します。



①自由に使用できる、
個別学習スペース



②ゆとりを考え、午前と
午後 2 時間を基本



③他の児童生徒の登下
校と重ならない工夫



④音楽・美術・技術・家庭
を統合した授業



⑤登校できなくてもオン
ライン授業で学べる



⑥給食はなく、お弁当は
どこで食べてもよい



⑦1 日の最後は、個別担
任との短い面談



⑧デマンド型バスを活用
し、保護者の負担軽減